

# 青少年のまちづくり参加に関する調査研究（17～18年度）の概要

## 1 研究のねらい

- ・本市の諸計画の策定や実施にあたっては、多くの市民の参画、協働で進められているが、青少年の参加の機会が少なく、また参加手法も十分開発されていない
- ・そこで、第5次総合計画の策定にあわせ、計画策定過程への青少年の参加プログラム（大学生による提案等）を企画・実施し、その参加のあり方や手法の検討、効果・課題等を調査研究する

「青少年」とは30歳未満の者、「子ども」とは20歳未満の者

## 2 経過

- ・研究期間 2年間（17年度は初年度）
  - ・研究方式 「アクション・リサーチ」方式により調査研究（実践研究）を展開  
「宇都宮大学教育学部 住環境・まちづくり研究室」と共同研究（実践研究の一部）
  - ・研究の流れ 参加の実態把握
    - ・行政計画への参加実態：主要計画等(12計画)における参加状況と問題点
    - ・参加に関わる行政施策の現状：仲間づくり事業、ジュニア未来会議など4事業の現状
- 実践研究1 「大学生等によるまちづくり提案」(H17.4～H18.1)  
実践研究2 「子ども参画プログラム」(H17.6～) 共同研究

## 3 研究結果（17年度中間報告）

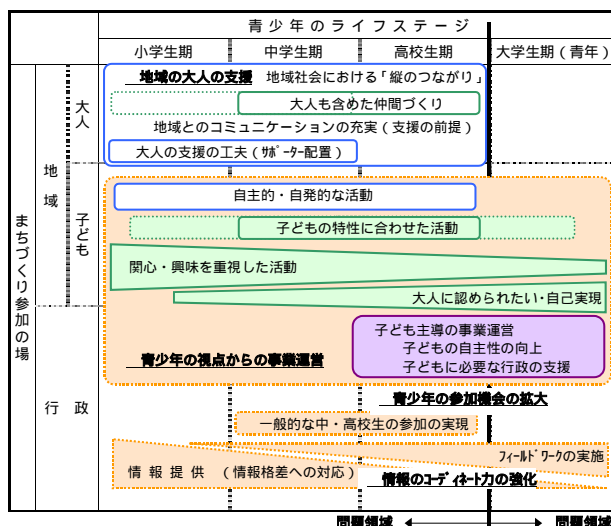
### 青少年のまちづくり参加の現状

#### 行政計画への参加

- ・青少年の参加は少ない。参加のしくみとその運用において、青少年の参加への配慮が十分ではなく、また、青少年の関心や理解を得られるものとはなっていない
- 一般市民を対象とする制度において多くの青少年の参加を得るには、青少年の参加を促す工夫が必要。また、これが難しく、または効果が低い場合には、青少年を対象とする制度の創設が必要。

#### 行政施策の現状と問題点

- ・参加が形式的なものにならないようにするためには青少年の視点から事業を立案して実施
- ・青少年の参加を得るには、多様な参加機会を用意して、参加の選択肢を増やすこと
- ・情報がなければ興味・関心は高まらず、意見表明もできないことから、情報提供は参加の根幹的問題。行政は、青少年のライフステージに応じて子どもへの情報をコーディネートするべき
- ・青少年の参加を地域で進める場合には、地域の実情に明るく子どもたちのことを理解している地域の大人の支援が不可欠



問題領域 に関する実践研究として、「子ども参画プロジェクト」を実施する  
問題領域 に関する実践研究として、「大学生等によるまちづくり提案」を実施する

### 青少年のまちづくり参加の留意点

#### 青少年の特性

- ・学年が上がるにつれてコミュニケーションが苦手な子どもが増える傾向にあるのではないかという指摘

- ・小中学生の生活と意識調査（平成 15 年 11 月市・教育委員会実施）では、「特にコミュニケーションが苦手だとは思わない」と答えた小学生が 41.8%に対し、中学生が 32.9%となっている

#### 子ども参画の段階

- ・「参画のはしご（ロジャー・ハート）」では、子どもの主体性と大人の関わり方により、参画形態を 8 段階に分けている
- ・注意すべき点は、上位の参画を実現することではなく、子どもの能力に見合った段階であるべきであり、子どもの選択により活動のレベルが設定されること

### 実践研究 1 「大学生のまちづくり提案」

#### 「まちづくり提案」の概要

- ・提案内容 / 今後の宇都宮市のまちづくりに関する施策事業提案
- ・参加の要件 / 市内にある大学、大学院における研究室等のグループであること など
- ・提案公表 / 平成 18 年 1 月に「まちづくり提案発表会」を開催

#### 提案実施の成果（参加者アンケート結果から）

- ・「まち」、「市政」を知った。これが、「まち」に対して興味を持つことにつながった
- ・市民を始め様々な人のまちづくりについての考えを知った
- ・市役所職員との交流が行政への理解につながった
- ・これまではなかった学生間（大学間、学部間、研究室間）の交流があった
- ・大学における研究活動の実践の場となり、学生の能力の向上につながった

#### 「まちづくり提案」の問題点

- ・「まちづくり提案」への青少年参加の拡大（興味・関心の向上）
- ・気軽に質問ができる環境づくり（知る・考えることへの支援）
- ・「まちづくり提案」の継続実施（意見表明の機会の提供）
- ・「まちづくり提案」の運営への参加（参加プログラムの企画・運営の協働）

### 実践研究 2 「子ども参画プロジェクト」

#### 「子ども参画プロジェクト」の概要

- ・居場所にいる子どもたちへの聞き取り調査
- ・子どもの居場所や地域活動を行っている大人（サポーター）への聞き取り調査
- ・先進地における子ども参画への取組についての聞き取り調査（4 自治体）
- ・高校生へのアンケート調査（2 校）

#### 子ども参画を促進するための条件

- ・子どもの生活実態や抱えている問題（悩みなど）などという身近なところからスタートすることが望ましい
- ・子どもの視点に立つ
- ・子どもの立場に寄り添う

行政や大人（サポーター）は 3 条件の重要性を認識した上で物事を考え、運営や組織、活動の仕組みづくりに取り組んでいる

子どもの視点や立場は、大人が推測するのではなく、「子どものことは子どもに聞く」という子どもの意見を尊重する意見表明権（子どもの権利）に基づいて捉えようと努力することも必要

#### 子どもたちの意見や本音を聞くためのプログラムの実施

- ・参画を進める条件を踏まえ、「子どもの居場所でのミニワークショップ」や「サポーター（地域の大人）との意見交換会」を実施していく

平成 18 年度は、実践研究を継続して実施し、2 か年の調査研究の結果を踏まえて、本市における青少年の参加のあり方と参加手法について最終報告書をまとめる予定